

プログラム

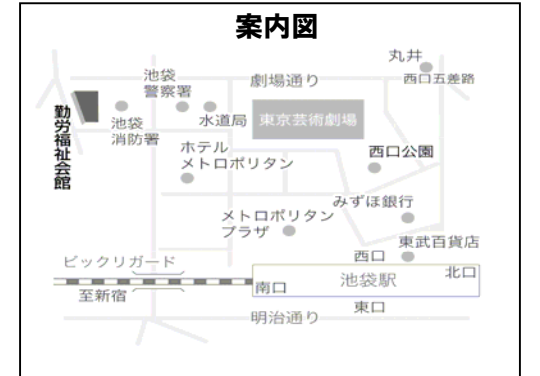
14:00 ～	◆開会式(6階 大会議室)	
14:20 ～ 15:10	◆基調講演(6階 大会議室) 鈴木隆雄 氏 (国立長寿医療研究センター所長) 演題:長寿社会における安全・安心の処方箋	
15:10 ～ 15:30	休憩	
15:30 ～ 18:00	◆第1分科会(6階 大会議室)	
	【テーマ】 長寿社会における安全・安心の創造	大淵修一 氏 (東京都老人総合研究所介護予防緊急対策室長)
	●座長 鈴木隆雄 氏 (国立長寿医療研究センター所長) 山内 勇 氏 (亀岡市理事)	長寿の処方箋/豊島区「元気！ながさきの会」の活動結果が示唆するもの
		後藤一明 氏 (春日井市安全なまちづくり協議会ポニター)
		山内 勇 氏 (亀岡市理事)
		小澤光男 氏 (横須賀消防局消防・救急課長)
		山田典子 氏 (青森県立保健大学講師)
		來次良弘 氏 (東京消防庁池袋消防署警防課救急技術担当係長)
		地域コミュニティこそ長寿の力/市民主導の要援護者図上救護訓練
		地域コミュニティこそ長寿の力/セーフコミュニティ認証都市亀岡市篠町の経験から
		3.11東日本大震災津波現場での避難事例
		セーフコミュニティ認証都市十和田のこころとたち/転倒予防とコミュニティの力
		家庭力で高齢者の安全・安心の創造/寝ていて熱中症って本当？
	◆第2分科会(4階 第3/第4会議室)	
	【テーマ】 生活道路における安全・安心の創造	久保田 尚 氏 (埼玉大学大学院理工学研究科環境科学・社会基盤部門教授)
	●座長 久保田 尚 氏 (埼玉大学大学院理工学研究科環境科学・社会基盤部門教授)	生活道路における安全・安心の創造/安心して歩けるまちづくりの秘策あれこれ
		平野亮二 氏 (厚木市産業振興部次長、前セーフコミュニティ担当課長)
		今井 修 氏 (首都大学東京客員研究員)
		村上滋敏 氏 (神奈川県警察本部交通部交通総務課補佐)
		小沢亮二 氏 (埼玉県県土整備部道路政策課政策担当主査)
		池田佳代 氏 (樹コンセプション代表取締役)
		厚木市における自転車安全対策とセーフコミュニティ導入
		長寿時代を先取りする一歩先の「みちの安全」とは？/空間情報技術GISなど最先端技術で創るセーフコミュニティ“としま”
		長寿時代を先取りする一歩先の「みちの安全」とは？/高齢者とみちの安全(社会調査)
		政策トップ賞：急ブレーキ箇所を探せ！/カーナビ活用による交通危険箇所の解消
		安全教育から安全学習への脱皮/楽しくて時間を忘れる自主安全教材
	◆第3分科会(6階 第7会議室)	
	【テーマ】 子どもと学校における安全・安心の創造	志佐光正 氏 (前厚木市立清水小学校校長)
	●座長 原田 豊 氏 (科学警察研究所犯罪行動科学部長) 倉持隆雄 氏 (厚木市市民協働部地域力創造担当部長)	田口孝男 氏 (清水っ子ネットワーク会長、厚木市立清水小学校PTA会長)
		田淵貢造 氏 (豊島区立朋有小学校校長)
		原田 豊 氏 (科学警察研究所犯罪行動科学部長)
		前川芳範 氏 (西武鉄道資産管理部管財担当課長)
		須谷修治 氏 (都市防災研究所客員教授)
		森 星豪 氏 (パナソニック電気照明事業本部中央照明エンジニアリング 総合照明ソフト開発グループ)
		西田佳史 氏 (産業技術総合研究所デジタルヒューマン研究センター人間行動理解チーム長)
		公立学校日本初の世界基準「安全学校」インターナショナル・セーフスクール/清水小学校の挑戦と国際認証の意義
		インターナショナル・セーフスクールへの取組み
		放課後における子どもの危険と安全/子どもの犯罪被害の測定と科学的な防犯活動/つくば市における子ども行動の実態(社会調査)
		西武鉄道の挑戦：安心メールシステムの可能性/鉄道事業者による子どもの安否情報
		夜のコミュニティ空間と防犯照明新時代/夜道の安全・安心に新しい光が！
		家庭における子ども安全/科学の目は子どもの虐待を見逃さない！
	◆ワークショップ(5階 第5/第6会議室)	
	【テーマ】 セーフコミュニティの効果的推進とサーベイランス	水越文広 氏 (東京消防庁救急部救急管理課救急情報係長)
	●座長 市川政雄 氏 (筑波大学大学院人間総合科学研究科教授) 渡邊良久 氏 (東海大学医学部基盤診療学系公衆衛生学非常勤准教授)	救急搬送データの分析結果を予防安全に活用しよう！/東京消防庁における取組みから
		渡邊良久 氏 (東海大学医学部基盤診療学系公衆衛生学非常勤准教授)
		梅原清子 氏 (厚木市子ども未来部青少年課主査)
		市川政雄 氏 (筑波大学大学院人間総合科学研究科教授)
		涌井誠一 氏 (前長野県警察本部地域安全室長)
		サーベイランスとセーフコミュニティ推進/国際外傷分類(ICECI)に準拠したデータ収集と活用上の課題
		厚木市外傷データの収集と活用 児童館における事例から
		豊島区におけるサーベイランスシステムの構築について
		長野県警察本部におけるセーフコミュニティ支援本部の設置

※演題は変更される場合があります。

としま安全・安心フェスタ2011

～「セーフコミュニティの力」
それは人のつながりから～
第8回日本市民安全学会豊島大会

- ◇日 時 平成 23 年 6 月 11 日 (土)
14 時～18 時 (受付 13 時 30 分)
- ◇会 場 豊島区立勤労福祉会館
池袋駅西口から徒歩 10 分、南口から徒歩 7 分
- ◇料 金 入場無料



— 開催趣旨 —

豊島区は、昨年3月、WHO 協働センターの提唱する世界基準の安全安心まちづくり「セーフコミュニティ」(世界 240 余都市、日本では亀岡市、十和田市、厚木市 3 市が認証取得) 導入を宣言、平成 24 年度の認証を目指して官民一体で積極的な取組みを展開しています。

他方、先の 3.11 東日本大震災は、被災地に未曾有の被害をもたらしたばかりでなく、区民生活の安全・安心にも新たな脅威や不安を与えています。

フォーラムでは、これらの情勢を踏まえ、基調講演「(仮) 長寿社会における安全・安心の処方箋」を国立長寿医療研究センター所長 鈴木隆雄氏にお願いいたしました。

第 1 分科会「長寿社会における安全・安心の創造」では、健康・自立の維持、防災訓練、事故予防など具体的な処方箋についてセーフコミュニティ先進都市の事例などを通じ、豊島区をはじめ高齢社会における地域の課題解決を探りたいと思います。

第 2 分科会「生活道路における安全・安心の創造」では、安心してみちを歩けるコミュニティづくりの事例を通じて、みちの重要性を学びます。

第 3 分科会「子どもと学校における安全・安心の創造」では、世界基準の学校安全(インターナショナルセーフスクール)の事例等を通じて、子どもの生活空間の安全・安心について考えてみましょう。

ワークショップは、「セーフコミュニティの効果的推進とサーベイランス」です。

本大会が区民一人ひとりにとって、「安全・安心」を自らの問題として見直すきっかけとなり、行政、警察、地域、学校、事業者、研究者等が協働して安全・安心創造都市「としま」を目指すキックオフ大会となることを期待してやみません。

是非とも、皆様のご参加をお願いいたします。

主 催 豊島区、日本市民安全学会
実施主体 としま安全・安心フェスタ 2011 実行委員会

【お問い合わせ】としま安全・安心フェスタ 2011 実行委員会事務局
〒170-8422 東京都豊島区東池袋 1-18-1 豊島区政策経営部セーフコミュニティ推進室
☎03-3981-1782 fax03-3981-4333 e:mail A0029300@city.toshima.lg.jp

基調講演

企画趣旨：

日本は、今、世界最長寿国として、人生 90 年時代の新しい社会的デザインが求められています。即ち、コミュニティで創る新しい長寿社会のあり方、個々の高齢者に多様なライフデザインを可能にする社会の実現、高齢者の QOL の向上に必要な「ライフイノベーション」（総合科学技術会議）など中長期課題とともに、3.11 東日本大震災で顕在化した高齢者の防災体制や災害時避難など危機管理としての課題などが山積しています。

基調講演では、国立長寿医療研究センター研究所長鈴木隆雄氏から、長寿社会における安全・安心の処方箋と題して、健康と安全・安心は高齢者の自立維持の要件であり、その生活空間における転倒や事故予防など安全・安心の創造の処方箋についてお話をいただきます。

第 1 分科会 長寿社会における安全・安心の創造

豊島区の最重点課題：超高齢化社会への処方箋を探る

企画趣旨：

世界最長寿国日本社会において、できるだけ長く健康で自立して生活すること、即ち、高齢者の生活空間における健康と安全・安心の創造は、喫緊の時代的課題となっています。

第 1 分科会では、（財）東京都老人総合研究所と豊島区が協力して認知症予防活動を実施し効果を実感した参加者が立ち上げた住民グループ「元気！長崎の会」の活動事例、ボランティア養成機関安全アカデミーの卒業生からなる市民主導で要援護者の救護図上訓練を長年行っている春日井市の事例、セーフコミュニティ認証都市亀岡市のモデル地区にける高齢者の安全対策事例、3.11 東日本大震災津波現場での避難事例、セーフコミュニティ認証都市十和田市における高齢者の転倒予防活動事例などを紹介する。また、今夏、計画停電が予定されるが、高齢者が就寝中に熱中症にかからない秘訣など、様々な切り口から長寿社会へのデザインを探ります。

第 2 分科会：生活道路における安全・安心の創造

企画趣旨：

「人優先の交通安全」は、本年 4 月から始まった新しい交通安全基本計画（9 次 5 計）の基本理念の 1 つであり、歩行者、高齢者、障害者、子ども等が、安全にかつ安心して外出したり移動したりできる生活道路の安全対策の重要性を指摘しています。特に、高齢者等のための交通環境の整備、安全知識や技能の向上、国民自らの意識改革および地域の交通課題に対する積極的な取り組みは、喫緊の課題となっています。

かつて、ブキャナンは、「都市の洗練された『質』を表す非常に有効な指標は人々がどれだけ自由に歩まわり見てまわれるかである」（「都市における自動車交通」1963 年）と指摘していますが、正に、地域コミュニティにおける生活道路の安全・安心の質の向上が、QOL の観点からも、今、問われているのです。

ところで、3.11 東日本大震災後、最初に行ったことは、被災者の救出や避難民への支援物資の輸送のための緊急交通路の開設等道路（みち）の安全整備でした。いつも当たり前に通っているみち、そのみちが緊急時には「命のみち」ともなります。

そこに住んでいる市民自らの日頃の「みちへの関心とみち普請への眼差し」は、交通、防災、防犯の観点からも、健全なコミュニティの生命線といっても決して過言ではありません。

本分科会では、内外の知見や住民自らの知恵と工夫でコミュニティ道路環境改善に成功した事例を含め、セーフコミュニティ導入と自転車生活の安全、GIS など最先端技術で創るセーフコミュニティ“としま”、カーナビ情報の道路安全活用、長寿時代の一歩先の「みちの安全」、高齢者自らの安全学習の推進事例など最先端の事例紹介を通じて、身近な「みちの安全・安心」のあり方やみち普請について考えてみたいと思います。

3 分科会 子どもと学校における安全安心の創造

企画趣旨：

厚木市清水小学校は、小学校区が厚木市のセーフコミュニティモデル地区に指定されたのを機に、WHO 協働センターが提唱する世界基準の学校安全（インターナショナルセーフスクール（ISS 認証制度）に挑戦し、昨秋、公立としては日本初の ISS 認証（国立では 2010. 3 大阪教育大学附属池田小学校が日本初の認証）を受けました。

その結果、例えば、ヘルメット着用率の向上、子どもたちが廊下を走らなくなった、自分で考えて行動するようになったなど子供たちの安全意識の向上や行動に変化が生まれ、教員、PTA、地域からも好評を得ています。

ところで、3.11 東日本大震災時、学校の開口部や向きで大津波の被害を最小限に食い止めた例や、地域の防災拠点（避難場所）としての小学校の役割、学校の先生による日頃の実践的防災教育が子どもたちの命をまもった事例等、地域コミュニティと学校との関係についての報道が注目されました。

本分科会では、ISS 認証制度の導入が、子どもをめぐる諸課題に幾多の新鮮な実践的アプローチとなった軌跡をたどり、その有効性について議論を深めるほか、放課後における子どもの犯罪被害の測定と科学的な防犯活動の在り方、鉄道事業者による子どもの安否情報システムなど、子どもの日常の生活活動空間における安全安心の創造について、学校、地域、家庭のそれぞれの具体的取組を紹介します。

ワークショップ セーフコミュニティの推進とサーベイランス

一事件・事故の予防安全に資するデータ収集とその分析・活用のあり方

企画趣旨：

サーベイランスは、セーフコミュニティの安全計画のベースライン策定や評価検証上、極めて重要なツールですが、外傷原因についての情報収集・分析制度（国際外傷分類：ICECI）をもたない日本において、外傷に関するデータ収集や分析手法の在り方は、セーフコミュニティ推進上、1 つの大きな課題となっています。

本ワークショップにおいては、東京都消防庁による救急搬送データの分析・活用事例の発表をいただき、これを素材として、豊島区と厚木市での取組みを通じ、SC 推進とサーベイランスの関係について議論を深めていきます。

セーフコミュニティ世界認証の 6 つの指標

- | | |
|------|--------------------------------------|
| 指標 1 | 分野を越えた協働を推進する組織が設置されている。 |
| 指標 2 | 全ての性別、年齢、環境をカバーする長期・継続的な予防活動を実施する。 |
| 指標 3 | 子どもや高齢者など、ハイリスクグループに焦点を当てた予防活動を実施する。 |
| 指標 4 | 傷害が発生する頻度・原因を継続的に記録する仕組みを持っている。 |
| 指標 5 | 予防活動の効果・影響を測定・評価するための仕組みを持っている。 |
| 指標 6 | 国内及び国際的なセーフコミュニティネットワークへ継続的に参加する。 |